

## 特技ってつまり超能力だよね？

M「テーマは『仕事』あるいは『一芸や特技が仕事』ってことです。一芸ってつまりアレでしょ？一回聞いたり見たりしただけですべて記憶できるとか、感情が色で見えるとか」

F「…それは超能力では。しかもドラマ」

M「じゃあ何よ」

F「ほら、ピアニストとか画家とかいわゆる芸術系の」

T「テニスとかスケートとかスポーツ系も」

M「つまりあれか！一度見た舞台をすべて記憶するおそろしい子北島●やとか、ボールが自分に集まる●塚ゾーンとかでしょ？…なんだやっぱり超能力じゃない」

F「いえ、それもマンガです！もっと普通に！天上の調べのようなピアノが弾けたり！血を吐くようなトレーニングを積んで試合で無敵レベルで勝ったり！そういうのです」

M「いやだFさん。それすでに普通じゃないわよ。でも超能力のほうが面白いじゃない。ホラ、触れるだけでその人や物の記憶が読めて、事件解決したり、時間を超えて真相を見に行ったり？そうだ！超能力を持っている人はみんな刑事になったらいいよね」

F「いや、そういうものを持っている人はあまりいないような」

T「でもギフテッドみたいな人はいます」

F「最近この言葉がメジャーになりましたね。昔からそういう人たちはいるみたいですが」

M「それにしても、一芸があってそれが職になるって憧れるよねえ。図書館員の場合、どんな一芸があればいいのかしら？」

F「私は、パソコンで検索せずとも尋ねられた資料を記憶だけで案内できたらいいなと思います。脳ミソがデータベース。貸出中かどうかもピピッとわかる」

T「背ラベルの分類が小数点以下まですべて頭に入ったら配架も早くなりそうです」

M「私はねえ、あるべき場所に見つからない本が、光って見えたり、『私はココよ！見つけて！』って本の呼ぶ声が聞こえたりしたらスゴイなど」

T「…結局どれも超能力」

F「まあ、そんな能力に期待せずに、地道に検索して探すしかないのです」

M「結局のところ、一芸を望むってことは超能力を望むってことなのよ。それはつまり、楽しんで仕事したいってことよね。だめよ！ちゃんと地道に働きなさい！！」

F&T「(自分が超能力の話ばっかしたくせに)」

F「検索の達人になれるよう頑張ります」

T「配架の達人になれるように頑張ります」

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>



←QRコードでも  
アクセスできます

# ホンダラケ

2025.2.1

## はたらくための超能力 特殊技能

M「ああ、人からうらやましがられるような特技があれば！」

T「あれば？」

M「…もう働かなくていいんじゃない？」

F「いや、それを生かして働くんですよ」

## 『SOKKI!—人生には役に立たない特技—』

秦建日子/著 講談社 2006 年刊



F/ハタ

「SOKKI」つまり「速記」。簡単な線や記号で表された速記文字を使って、インタビューなどの話す言葉を書き取る技術です。時は 1980 年代、早稲田大学に入学した本多は、可愛い女の子・希美に誘われ、下心アリアリで速記研究会に入会してしまいます。速記の技術の上達に反して、恋の進展はまもなくならず、強力な恋のライバルも現れ…。作中に 50 音の速記文字が記載！会得すれば授業の言葉も書き取れるから結構役に立ちそうですよ？

## ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館の YA (ヤングアダルト) コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YA コーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

## 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「本で旅して」

ページをひらけばそこは……。今回は特別2本立て!

### 『読んで旅する海外文学』

重松理恵／著 大月書店 2023年刊

この本は多くの本を扱い「世界一周読書旅行」ができるのが魅力です。例えばインドなどそれぞれの国の出身者が書いた本とその本に対する感想が載っています。また、日本作品ではなく海外作品を扱うことで新しい視点が見えてきます。ブックレビューも合わせることで、まるで自分も旅行しているような気分を味わえる一冊です。

(O19.9/23)

P.N. クジラ (中学1年生)

### 『〈本の姫〉は謳う』

多崎礼／著 中央公論新社 2007年刊

自分ではない“誰か”の記憶を持つ少年アンガスが、本に宿った謎の女性〈本の姫〉と共にスペルを探る旅の物語と『理性』という聖域で1人孤独に育った〈俺〉の人生。これらは、2つにして1つの物語。旅する少年アンガスと孤独に生きた少年達が呼び起こす愛と勇気の物語。進むにつれて、人間関係を考えさせられる不思議な一冊です。(F/タサ)

P.N. Mio (中学1年生)

## 新着図書 Pick Up

### 『超新釈 エモ恋万葉集』

蜷気羊／著 スターツ出版 2024年刊

万葉集におさめられている、恋の和歌を集めて紹介した一冊。もちろん、訳・解説つき……ですが、出てくる言葉やシチュエーションは令和版。作品の表現などが今の時代と近くなるようになってくれているので、1000年以上昔の恋の歌も身近に感じられます。

この本を読んだキミの心は恋に切なくなったり、キュンキュンしたり、きっと大忙し。収録されているイラストや和歌を題材にした短編、青春を感じる表紙も魅力的な作品です。



911.1/シン

## 「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介しします

### 『会社で働く』

松井大助／著  
ペリかん社

製品開発ストーリーから職種を学ぶ!』

2021年刊



366.2/21

私たちの生活は、多くの会社員が働くことによって回っています。とはいえ、会社の中でどんな仕事をしているのか、わかりにくいのも確か。

この本では、「家庭用ロボットをつくり、人びとに届ける」というストーリーに沿って、そこに関わる会社にどんなものがあるのか、その中で働く人が何をしているのかを見せてくれます。メーカーだからといって物づくりをしている人だけではないし、小売りだからといって売る人ばかりではありません。読めば、会社で働くことの一部が見えてくることでしょう。

## 難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『ちくま日本文学全集54 織田作之助』より

「猿飛佐助」 織田作之助／著 筑摩書房 1993年刊

この物語の主人公・猿飛佐助は、真田幸村に仕える忍者。実在しない人物ですが、真田十勇士のひとりとして知る方は多いでしょう。物語では、ことばあそびが混じった口上や、ここでそうなるの?!みたいな展開が繰り広げられていきます。忍法を使って隠密活動したり、戦ったりする忍者のイメージとは少し違う一面も描かれたユーモアのある忍者物語です。



918.6/チク